

事業報告書

令和4年度

「令和4年4月1日から令和5年3月31日まで」

学校法人 山本栄学園

1.法人の概要

1. 名称:学校法人 山本栄学園(昭和 53 年 1 月 13 日法人設立)
2. 住所等:大阪府四条畷市中野本町 7 番 1 号
電話番号 072-877-0339
ファックス 072-877-2485
ホームページ <http://www.nawate.ed.jp>
メールアドレス nawate71@silver.ocn.ne.jp
3. 設置する学校(令和 5 年 5 月 1 日現在)
学校の名称:幼稚園型認定こども園-畷幼稚園(3 歳児、4 歳時、5 歳児)
収容定員:480 名、利用定員:300 名
施設の名称:小規模保育事業所-まんまる(1 歳児、2 歳児)
利用定員:18 名、
4. 理事長氏名:原 史臣
* 理事 6 人、評議員 13 人、監事 2 人 定例理事会年 2 回開催
5. 教職員の状況(令和 3 年度末時点)
* 畷幼稚園:園長 1 名、教員 25 名、(うち新規採用 2 人、退職者 2 名)
まんまる:施設長 1 名、保育士 5 名(うち非常勤 1 名)調理師 2 名
共通:園医 4 名、薬剤師 1 名

2.事業の概要

1. 教育方針

子どもが生まれて初めて出会う学校として、入園から卒園までの子どもの発達を見通したカリキュラムを編成し、各年齢にふさわしい直接的な体験が得られるような保育内容を実践している。特に、言葉の育ちの出発点である「よく聴く」こと、自分の五感をフルに使う「よくする」こと、思考力の芽生えとしての「よく考える」ことはこの時期の子どもたちに欠かせない経験であり、小学校以降の学力を支えることから、その育ちを保障する環境設定には十二分の配慮を行っている。

2. 学年、定員、実員(内訳)、学級数(令和 4 年 5 月 1 日)

年度	3歳児	学級数	4歳児	学級数	5歳児	学級数
収容定員	130	5	175	5	175	5
利用定員	100	4	100	4	100	4
R4 年度実員	81	5	92	4	98	4

3. 保育時間

○1号児(新2号児を含む)月～金曜日:通常保育 午前9時30分～午後2時30分
1時降園 午前9時30分～午後1時00分
午前保育 午前9時30分～午前11時00分

○2号児(標準時間)月～土曜日 午前7時30分～午後6時30分
(短時間)月～土曜日 午前8時00分～午後3時00分

○給食日(1号児)月～金曜日(2号児)月～土曜日

4. 保育料及び諸経費

○保育料:無償

○給食費 287円/1食(保護者負担は個人による)

○園バス維持費 12000円/3か月(2号児) 10500円/3か月(1号児)

○桜の会(保護者会)費 年間7500円

5. 入園時の費用

○入園準備費:40,000円(3歳、4歳児、5歳児とも)

○施設設備協力費:15,000円

○入園検定料:5,000円

6. 預かり(メロデイ)保育(1号児)

○月～金曜日:午後3時～午後5時(最大延長6時30分)

早朝預かり:午前7時30分～午前8時00分

○長期休業中(春休み、夏休み、冬休み)の預かり保育あり

7 行事の実施状況

○4月/始業式、入園式、遠足、幼年消防クラブ認定式、園内研修

○5月/遠足、参観、検尿、内科検診、耳鼻検診、眼科検診、歯科検診、遠足

○6月/プール始め、避難訓練、移動動物園

○7月/参観、個人懇談、夏休み、夏季預かり保育、夏の思い出

○8月/教職員研修会、夏季保育、夏季預かり保育、

○9月/運動参観、自由参観

○10月/新入園児願書受付、みかんがり、アルバム写真撮影、遠足、園内研修

○11月/創立記念日、七五三まいり、造形展

○12月/日舞発表会、サッカー大会、クリスマス会、冬季預かり保育

- 1 月/新入園児オリエンテーション、園内研修
- 2 月/生活発表会
- 3 月/新入園児半日入園、個人懇談、卒園式、修了式、春季預かり保育

3.令和 4 年度事業報告

1、本館の改築工事について

令和 4 年の 6 月より本館の改築工事が始まる予定であったが、暇幼稚園とまんまるとの合築工事であることにより、大阪府と四條畷市の間に通常の改築工事以上の書類のやり取りがあり予想以上に時間を要することになった。それに加え、文化財の発掘調査が重なりこれも工事の着工が遅れる原因となった。約 5 か月の遅れのスタートであったが工事は順調に進んでいると思われる。が、それでも小さなトラブルは多々あり、更地に新築するのと違う難しさを痛感する。また、補助金に関してでも補助対象工事に対する園と大阪府との見解の相違が見られ、昨年決定された補助金額が大きく減額されるという事態となった。

2、活動の丁寧な振り返りと子ども主体の保育の構築

子どもたちの活動(日々の活動から行事に至るまで)を子ども目線で振り返り、活動をすることの意味や根拠を丁寧に分析していくと、子どもの思いや願いよりも教師の意図が強いことが見えてきた。勿論、教育は意図性のある試みである以上、教師の意図が働くのは当然であるが、それが強すぎると子どもたちは受け身の姿勢となり主体性は育たない。子どもたちの主体性を伸ばすための保育とは何かについて今年度の園内研修に取り入れた。

3、保育の可視化を図る

保育は「遊びを通しての学び」であるが、第三者的には単に遊んでいるだけで学んでいるというイメージがほとんどない。そこで、少しでもわかってもらえるように、参観の折に写真や文字を通して保育活動の可視化(ドキュメンテーション)を図った。勿論、保護者に対してのものであるが、子ども自身も自分たちの活動を振り返り、次につなげていくという観点からも保育には必要なスキルであると考えた。

4、小学校との接続の一環として予定されていた「保幼小中」連絡協議会へ今年度も参加をし、情報の交換、共有を図ることができた。